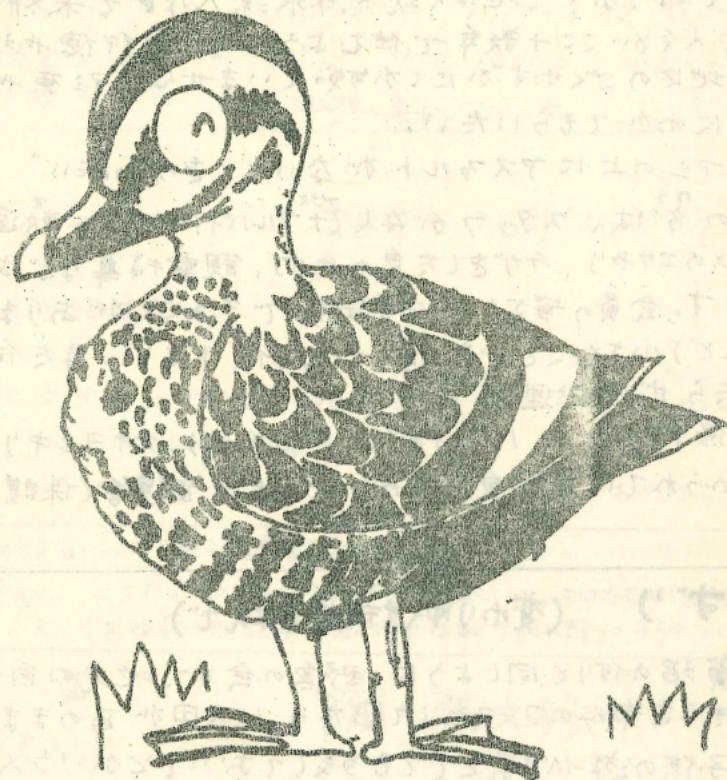


すずりども通信 No.12

1982.4.1

行使野鳥観察会の会報



W W

イラスト

W W

カルガモ

W W W W

村上ちぶみ()

私は住所の関係で昨年3月に大井埋立地のバードウォッチングに参加したのが、野鳥の会とのおつきあいの始まりです。その後は時折大井を訪れることがあります。ちょとこのぞいてくるといつていいとて、今日のようにいい天気の日にのんびりゆっくり鳥たちや同好の士とたのしむのは久しぶりのことです。大てうたのしく勉強にもなりました。若い人たちがよき先達の弟子としてくださったのもうれしいことでした。そのせいもあるのでしょうか鳥の種類も大井より多いような気がします。

山本理平() 82.3/4 新潟自然観察会に参加して

はあと 水とけざりアシガラぐむ <田久保晴考>

妙典のハス田や、保護譲りで、ピッピッピッ…というコチドリのこゑが春を伝えてきます。アシの芽やヒメガマの芽もだいぶみえてきました。生き物は確か不足ひとりで春を感じとっています。

しかし、この鳥や昆虫たちのすみ家である、湿地やアシ原は年々せばめらかであります。妙典の地下鉄東西側の大きな池も、アシ原(水路)工事がおこなわれ、埋め立てられています。新潟の面影を残すこのハス田や湿地を埋立てから残す方法はないものでしょうか? (地盤沈下、下水流入など)で未耕作地がふえている)

何万といふ人々が二十数年で仕むようになって、行徳や浦安のハス田や湿地は、もう妙典地区のごくわずかにしか残っていません。アシ原やハス田の価値をもと多くの人々にわかってもらいたい。

「来年もアシの上にアスファルトかないことを願いたい」

観察会の方は、スタッフが4人(アルバイト)となり、軌道にのってきたようですが、カモメのエサやり、ケガした鳥のせわ、観察指導など、あい変わらずいそがしいようです。会員の皆さんも、お手伝いできることからありましたら(観察指導、ゴミ拾いなど)小さなことでも、進んでお手伝い下さい。また何かお気づきの点がありましたらぜひご連絡下さい。

もうすぐ保護区でも、パン・オオバンやコチドリ、オオヨシキリなどが繁殖します。おいつめうれでいる野鳥のためにもよりよい観察会(保護区)にしていきましょう。

さえずり (實ゆく行動をよんで)

私は手賀沼の例と同じように、野鳥の会か、地元の自治会の方で最もきっと、おでこ散歩のコースにしていました。ハス田があるまま残していく方が良いとか、子供の遊び場としても残しておいてとかいう人は、絶対いると思います。地元の自治会へ働きかけ、次第に、その中の有志の方の中から、「妙典の自然を愛する会」などというのができてくれは、かなり有力な力になります。ではないでしょうか?



「妙典を守るために」

又、蓮尾さんからある行徳野鳥観察会を使い、「妙典の自然」とかいて、妙典に来ました。ゼイタガミキヤ、カモ等の鳥達や、ハスを嫌う人々に、その横で耳きついばるコサギ? 等の写真展を開いて、地元の人々の関心を呼び起し、野鳥観察会にきた人達に妙典の自然を残すための署名をしていただく等の方法はどれないのでしょうか?

いざれにしても、少數の者が叫んだところで、市や県は、動かさないでの、地元の人々の意見をなくすべく多く結集してて、市や県に訴えかけ市や県を動かし妙典地区を残す方向へともっていくのが、良いのでは? と私は思うのですが? 本当に、もうこれ以上の自然破壊は沢山ですね

中村純司 ()

2 (050)

新潟自然観察会 314 (妙典→水路→保育園) 数件明記
(本地)

カツアフリ2、ダイサギ10、コサギ20、カルカモ200、コガモ300、ヨシガモ3、オカモ2、ヒドリカモ100、オナガカモ100、ハシビロカモ100、キククロハシロ10、スズガモ50、チュウヒ1、バン2、オオバン10+、コチドリ1、シロチドリ50、ハマシギ100、ツルギギ10、インセギ2、クシギ2、セイタガミギ6、ユリカモ100、ヤケロカモ100、ウズネコ1、キシハト5、ヒバリ30±、ツバメ2、ハクセキレイ30、タヒベリ2+, ヒヨドリ10+, モズ1、ショウビタキ2、ツグミ50、ウグイス1、木戸ムロ1、カミラタガ5、アオム2、オオシリソ30、カラハビワ6、スズメ200、ムクドリ30、ハエボンガラス、ハエブトガラス、追加保護候補) カウウ1、アオサギ17、マガモ6、アメカヒトリ11、(スズカモ3000±) カモメ、帝外ドバト49種、参加者40名 担当取締、鷺谷、若田、東。

ショーフーコーナー

現在(3/30)かべしんぶん「カツアフリ」25号×26号(316発行)がけられています。

25号(原・長尾・前山他編集)より

チュウヒとカラス、

カラスがチュウヒにえささうばわれたらしく、カラスがチュウヒをおいかけて、カラスのしゃぶりに終われたようです。

*へま注 これはモビシケといって小鳥(カラス)はフレタカくこと、集団やおひはらう習性がある

トビックス 3月にカモメの仲間がたくさん観察されました。

ユリカモメ1568羽、セラコカモメ407羽、ツミカモメ1羽、ミコカモメ1羽、オモメ21羽、ウミネコ1羽 スズガモは数千羽程度、東京湾では数万羽の群がみられています。

自然の國から

② 頭鳥との出会い

[田久保文子]

さわやかな季節になりました。通勤・通学、買物の途中いつもよいのです。一歩、外へ出たら、あたりを見まわし、耳さかたけてみると、ほら野鳥の姿が見え、可愛いい声も聞こえできます。スズメのチヨン、チヨンという声は、だれでも知っていますが、良く聞いてみると、スズメの声以外にも違った鳥の声が聞こえます。キーコロ、キーコロロ…これはカラハビワのさえずりです。声の方に目をやるとスズメ位の大きさで、茶色がかた緑色の体でつはさに大きな黄色の斑があり、口ばしもスズメと違うはだ色で、尾は鳥の尾のような形をした小鳥加リ3はずです。

私はこの鳥と初めて出会った日のこと、はっきり覚えています。通勤の途中でした。電線の上で7羽が朝日をおひて、気持ちよさそうにさえずっていましたのです。そして帰宅後、野鳥園からひろげてカラハビワとわかる時の感激を、その日から朝の通勤かとても楽しくなったことを! この楽しみは、どなたにも分けらるる楽しみです。皆さんも、ちとだけ自然界に目、耳さかたけてはいかがですか! 行徳の市街地でも他にヒヨドリ、キシハト、オナガ、ムクドリなどたくさんのが見つかります。

3 (051)

行事案内

だれでも自由に参加できます

しんりきふ

新浜自然観察会

4月11日(日), 5月9日(日), 6月13日(日)
(毎月第2日曜日)

集合: 東西線行徳駅広場 9時30分

解散: 野鳥観察舎前 午後2時30分±3

案内: わずかに残されている妙典地
区の湿地や保護区で、シギ・チドリ
・カレガモ・サギなどの中鳥を中心
に動植物の観察をします。(年前中は江戸川放水路、妙典の湿地
を観察し、今後は保護区を観察する予定)

弁当: 水筒、雨具などをおわすれなく!

定期園内せん観察会(観察舎主催)

4/4・18・5/2・16・6/6・20(祝日曜日)

集合: 野鳥観察舎前 午後1時30分

解散: , 午後4時:3

<観察路 約3.5km歩きます>

— 観察舎より —

開館午前9時～午後5時；休館日毎週月曜日、毎月末金曜日(ただし4月は23日)及び祝日の翌日
(月曜日から祝日の時は開館なし、火曜日連休)パートナー特別行事 5月8日(土), 9日(日) 特別園内観察会 (かくは観察舎へ
"パートナー期間中、特製バッヂをさしあげます") TEL 0473(97)9046

かねてより改築中だった、鳥の病院(トリゴヤ)が完成しました。もう一つは建築中(つづく)。

事務局

今年度の会費をおおさめ下さい。年会費普通1000円 贊助2000円以上、ジュニア500円
(観察舎においても会費をあずれてもらいます)

観察舎では、野鳥に関する本、糸会はかき、レーセット、蓮尾さんかく、大鳥のマスコット、観察舎の絵はかき(冬・春 1組4枚…150円)次の会発行などを販売しています。

観察舎の蓮尾純子さんから本を出しました(参考資料)、「野鳥観察日記」(少年図書館61
せいかいもの上)お読み下さい(観察舎にもあります)

季節ごと

観察舎までの小道のわきに、龜谷さんたちが植えたサクラ木、古い木が大きくなり、もうじき花開いて咲くのです。スズカモたちもヘリニホウカラは鳥の数が少なくなっていますが、それでもいい感じで野鳥がみられますよ。いつもおひまなときはおいで下さい。ホトなどもよく見(は3次)

すすかみ通信 発行人 龜谷 栄

No. 12 事務局 鈴木 有美

1982年4月1日発行 編集人 田久保 晴孝・文子
振替 仙台-6129

年会費 1000円 観察舎 Tel 0473(97)9046